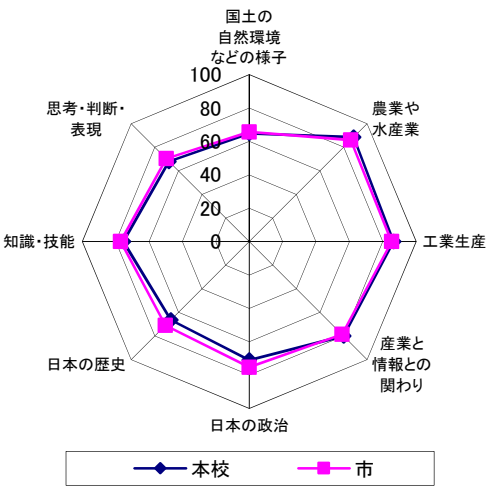


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	64.8	65.7	67.0
	農業や水産業	88.5	86.1	77.5
	工業生産	86.5	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	80.0	78.6	69.6
	日本の政治	71.0	75.2	65.8
	日本の歴史	66.4	71.1	69.1
観点別	知識・技能	75.4	77.0	72.8
	思考・判断・表現	68.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本校の正答率は市の平均よりやや低い。 ○森林を守るための間伐や自然災害から命を守る取組についての問題の正答率は、市の平均を0.7～1.9ポイント上回っている。 ●雨温図から都市の位置を考える問題の正答率は、市の平均を5.7ポイント下回っている。日本各地の気候の特徴を正しく理解することができていない児童が多い。	・気候の特徴は暗記するだけでは実感的な理解につながらず、学習してすぐに忘れてしまうことが多い。周りの地形やその土地で採れる農産物、その土地での生活に関する資料などを示しながら、気候の特徴を実感的に理解することができるようにしていきたい。
農業や水産業	本校の正答率は市の平均より高い。 ○米づくりの作業をもとに資料を読み取る問題の正答率は、市の平均を8.4ポイント上回っている。地域の水田へ校外学習に行き、作業や道具を見学したことが、深い理解につながった。 ●資料に着目して米の生産効率について記述する問題の正答率は、市の平均を1.0ポイント下回っている。	・今後も「総合的な学習」と連携して、地域の水田に校外学習に行く活動を継続することで、興味を高めながら学習できるようにしていく。 ・ただ教科書を読むだけではなく、資料を見て自分の気付きをノートに書きこませたり、友達と意見を伝え合ったりする活動を適宜取り入れることで、記述問題に抵抗なく取り組むことができるようにしていく。
工業生産	本校の正答率は市の平均よりやや高い。 ○工業製品の種類についての問題の正答率は、市の平均を2.7ポイント上回っている。日産の自動車工場へ見学に行き体験しながら学んだことや、映像教材やスライド資料を見ながら学習したことが効果的であったと考えられる。	・今後も、自動車工場などへ行き、体験的に学ぶことができる活動を多く取り入れていく。また、実際に見に行ったり実物を用意したりすることができない学習内容のときは、映像資料や画像を示しながら学習を進めていくことができるように、教材を用意して授業を展開していく。
産業と情報との関わり	本校の正答率は市の平均よりやや高い。 ○情報の正しい受け取り方についての問題の正答率は、市の平均を1.4ポイント上回っている。インターネットを活用した授業や情報モラル出前授業などにおいて、正しい情報を受け取るために複数のサイトの情報を比べたり、人に聞いたりしながら確かめることを継続的に指導した結果が表れたと考えられる。	・来年度からは、一人一台端末が導入され、授業においてICTを活用する機会がより増えてくるので、実際に調べ学習やまとめる活動を行う中で、信憑性のある情報の集め方や、正しい情報発信の仕方などを繰り返し教えていく。
日本の政治	本校の正答率は市の平均より低い。 ●日本国憲法における天皇の地位についての問題の正答率は、市の平均を14.1ポイント下回っている。日本国憲法における天皇の地位だけではなく、日本国憲法の内容を正しく理解することができている児童が少ないことが推察される。	・日本国憲法の学習では、難解な言葉が多く出てくることで、言葉の意味を理解して学習を進めることができなかった児童がいたので、一つ一つの言葉を丁寧に整理して授業を進める。 ・政治分野では、国会、内閣、裁判所の関係など図やイラストで提示すると分かりやすくなる内容も多いので、板書や提示資料を工夫していく。
日本の歴史	本校の正答率は市の平均より低い。 ●藤原氏が朝廷で大きな力をもつことができた理由についての問題の正答率は、市の平均を16.7ポイント下回っている。平安時代に起こった出来事や、その時代に出てきた人物とのつながりを感じることができていないことが課題である。	・平安時代だけでなく、各時代において起こったことや人物について覚えることができていない児童は少ない。新聞等にまとめる活動を取り入れることで、理解を深められるようにしたい。 ・出来事や人物同士のつながりが見えていない児童も多いので、単元の終末にはつながりを意識しながらまとめていくようにする。